

©朝日小学生新聞社
〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館9階
電話 03-3545-5223(広報) 03-3545-5222(編集)
購読申し込み 0120-415843 ウェブサイト www.asagaku.com

がけくずれ

斜面がとつぜんくずれ落ちる



国土交通省の資料をもとに作製

土石流

山や谷の石や土砂がくずれ、水とまざって一気に流れ出る



地すべり

地面が広い範囲にわたり動く



イラスト・たなかさゆり

台風季節に知っておこう

土砂災害

大雨で地面がゆるみ、くずれ落ちる

夏から秋にかけては台風などの影響で大雨が降り、土砂災害が起こりやすくなります。東北大学災害科学国際研究所の准教授、森口周二さんに、発生しやすい条件や、日ごろからできる備えについて聞きました。(前田奈津子)

土砂災害は6月から9月に発生しやすいです。

去年は、土砂災害が1996件(国土交通省調べ、火砕流をのぞく)発生しました。集計を始めた1982年以降、4番目に多くなりました。これまでに最も多かった年は2018年で、3459件でした。

土砂災害の原因は主に地震と雨です。地震は、ゆるむことで地面にひびが入るなどしてこわれやすくなります。また雨が降って、地面に水がたかさんしみて、土がやわらかくなってくずれやすくなります。特に同じ場所に雨が降り続いたときは、地盤がより弱くなります。また、谷のようなくぼんだ地形などには、雨が集まりやすくなります。

土砂災害は、「がけくずれ」「土石流」「地すべり」の大きく3種類に分けられます。

「がけくずれ」は、雨や地震で地盤がゆるみ、急な斜面が突然くずれ落ちることです。

「土石流」は、土砂が水とまざって、川などを流れ下っていく現象。土石流の速さは、時速20〜40キロといわれています。自動車が走るくらいのスピードです。

「地すべり」は、地下水の影響などで、地面がゆっくりと斜面の下の方へ動く現象。比較的ゆるやかな斜面で、広い範囲にわたって起こるのが特徴です。

森口さんは「土砂災害は短時間建物にこわすなどの大きな力があります。本やインターネットで災害の特徴を調べて、危険を知っておくことが大切」と話します。

被害を予測して早めの備え



大雨で地面がくずれた現場。7月、熊本県芦北町 ©朝日新聞社

土砂災害に備えるために「ハザードマップを活用してほしい」と森口さんはいいます。自然災害の被害を予測し、その範囲を地図にしたものです。自治体のウェブサイトで確認できます。「いざという時に使えるように、情報の内容や調べ方を確かめておいてください」と森口さん。

また、雨が降ったときには、気象庁のウェブサイトで役立つそうです。「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」というページがあり、大雨による土砂災害発生危険度の高まりを地図上で示しています。「今、どこで災害が起きそうかなどが大まかにわかる」といいます。

子どもたちには、自分の暮らす地域で過去にどんな災害があったかを知り、日ごろから災害について考えてほしいといっています。例えば、大雨が降ったらどのような行動をとるか、ふだん通っている道が通れなくなったらどのようなようにして避難するか、などです。

「災害は自分に関係するものだと考えて、一人ひとりができることをすることが、災害を減らすことにつながると思います」と森口さんは話します。

天声人語

熊本県水俣市で発生した水俣病の患者の写真をとり続けたアメリカ人を知っていますか。ユーザー・スミスという写真家です。水俣では1953年から、手足がしびれ、体の自由がきかなくなり、話もできなくなる原因不明の病気が起きていました。工場から水銀が混じった水が海に流されて、その海の魚を食べた人が病気になることがわかりました。ユーザーは水俣の公害を知ると、現場に行き写真をとることが使命だと感じ、52歳だった71年9月に水俣を訪れました。空き家を借り、患者や患者家族と近所づき合いをしながら取材を続けました。女性患者を気づかい、その手を1時間にもぎりながら写真をとったこともありましたが、取材中のけがで帰国して、家も75年9月2日に引きはらいました。ユーザーはこの年「MINAMATA」という写真集を出し、水俣病で苦しむ患者たちの姿を世界に伝えました。

エスティー・ジェーエス

SDGsってなんだろう?

エスティー・ジェーエス じぶんか のう かいほつもくひょう まな
SDGs(持続可能な開発目標)を学ぼう。
エスティー・ジェーエス まな じゅぎょう
SDGsについて学ぶウェブ授業
動画などが見られます。

朝日小学生新聞